

項目	内容
名称	フィーバーフュー、ナツシロギク [英]Feverfew [学名]Tanacetum parthenium、Chrysanthemum parthenium、Pyrethrum parthenium、Matricaria parthenium
概要	<p>フィーバーフューはヨーロッパ東部からアジア南西部に分布し、道端や荒地に生える高さ30～80 cmの多年草で、観賞用や薬用にも栽培されている。葉は強い芳香を有する。葉、頭花を煎液、チンキ剤、精油などとして使用する。</p> 
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全草：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。</li> </ul>
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉にセスキテルペノイドを含み、その主なものはパルテノリド (parthenolide)。他にゲルマクラノリド (germacranolide)、グアイアノリド類 (guaianolide) 等。</li> </ul>
分析法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パルテノリドをUV検出器付HPLC (C18カラム) により分析した報告がある (<a href="https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/10995104/">PMID:10995104</a>)。</li> </ul>

## 有効性

循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・感覚器	<p><b>RCT</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・片頭痛のある成人49名 (18~64歳、試験群24名、アメリカ) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、リボフラビン400 mg/日、マグネシウム300 mg/日、フィーバーフュー100 mg/日を3ヶ月間摂取させたところ、片頭痛の頻度や症状に影響は認められなかった (<a href="#">PMID:15447697</a>)。</li> <li>・片頭痛のある成人76名 (平均46歳、イギリス) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、フィーバーフュー約82 mg/日を4ヶ月間摂取させたところ、頭痛の頻度低下と関連が認められたが、頭痛の持続期間に影響は認められなかった (<a href="#">PMID:2899663</a>)。</li> <li>・片頭痛のある人57名 (平均38歳、イスラエル) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、フィーバーフュー50 mg/日を4ヶ月間摂取させたところ、痛みが軽減した (102)。</li> <li>・片頭痛のある成人44名 (18~64歳、オランダ) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、フィーバーフューカプセルを9ヶ月間摂取させたところ、症状に影響は認められなかった (<a href="#">PMID:23195074</a>)。</li> </ul>
免疫・がん・炎症	<p><b>RCT</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関節リウマチ患者40名 (試験群20名、平均52歳、イギリス) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、フィーバーフュー約76 mg/日を6週間摂取させたところ、血清反応陽性、症状持続期間に影響は認められなかった (<a href="#">PMID:15447697</a>)。</li> </ul>
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (20) ハーブ大百科 誠文堂新光社 デニ・バウン
- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
- (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)
- (61) WHO Monographs on Selected Medicinal Plants [Vol.1-4]
- (67) ESCOP Monographs 2nd ed, Thieme
- [\(PMID:2899663\) Lancet. 1988 Jul 23;2\(8604\):189-92.](#)
- [\(PMID:2673080\) Ann Rheum Dis. 1989 Jul;48\(7\):547-9.](#)
- [\(PMID:15384148\) Rapid Commun Mass Spectrom. 2004;18\(19\):2273-81.](#)
- [\(PMID:2886604\) J Pharm Pharmacol. 1987 Jun;39\(6\):459-65.](#)
- [\(PMID:2860288\) Lancet. 1985 May 11;1\(8437\):1071-4.](#)
- [\(PMID:6810384\) Prostaglandins Leukot Med. 1982 Jun;8\(6\):653-60.](#)
- [\(PMID:1981582\) J Pharm Pharmacol. 1990 Aug;42\(8\):553-7.](#)
- [\(PMID:2465950\) Folia Haematol Int Mag Klin Morphol Blutforsch. 1988;115\(4\):447-9.](#)
- [\(PMID:6125851\) Lancet 1982;2:776.](#)
- [\(PMID:10995104\) J AOAC Int. 2000 Jul-Aug;83\(4\):789-92.](#)
- [\(PMID:2899663\) Lancet. 1988 Jul 23;2\(8604\):189-92.](#)
- (102) Phytotherapy Res. 1997;11:508-11.
- (104) Evidence-based guidelines for migraine headache: overview of program description and methodology. US Headache Consortium, April 2000.
- (106) Integr Med. 1998;1(1):11-3.
- (107) Adv Effects Herbal Drugs. 1992:255-60
- (108) Proceedings of Deutscher Schmerzkongress 1999
- (68) The ABC Clinical Guide to Herbs, Thieme, Mark Blumenthal
- [\(PMID:15447697\) Headache. 2004 Oct;44\(9\):885-90.](#)
- [\(PMID:23195074\) Phytomedicine. 1996 Nov;3\(3\):225-30.](#)